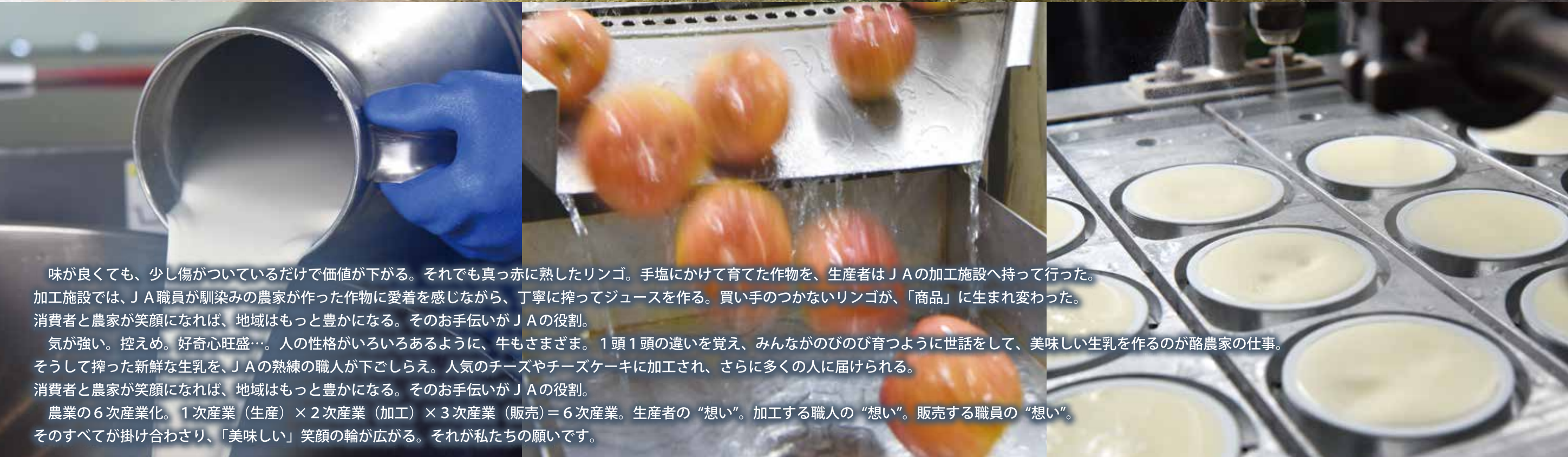




Scene.1
農業の6次産業化

消費者と農家と地域が笑顔。 そのお手伝いがJAの役割です。



味が良くても、少し傷がついているだけで価値が下がる。それでも真っ赤に熟したリンゴ。手塩にかけて育てた作物を、生産者はJAの加工施設へ持って行った。加工施設では、JA職員が馴染みの農家が作った作物に愛着を感じながら、丁寧に搾ってジュースを作る。買い手のつかないリンゴが、「商品」に生まれ変わった。消費者と農家が笑顔になれば、地域はもっと豊かになる。そのお手伝いがJAの役割。

気が強い。控えめ。好奇心旺盛…。人の性格がいろいろあるように、牛もさまざま。1頭1頭の違いを覚え、みんながのびのび育つように世話をして、美味しい生乳を作るのが酪農家の仕事。そうして搾った新鮮な生乳を、JAの熟練の職人が下ごしらえ。人気のチーズやチーズケーキに加工され、さらに多くの人に届けられる。消費者と農家が笑顔になれば、地域はもっと豊かになる。そのお手伝いがJAの役割。

農業の6次産業化。1次産業（生産）×2次産業（加工）×3次産業（販売）＝6次産業。生産者の“想い”。加工する職人の“想い”。販売する職員の“想い”。そのすべてが掛け合わせり、「美味しい」笑顔の輪が広がる。それが私たちの願いです。



知って納得JA

- Q** JAは何をしている協同組合なの？
- A** 農業を中心に、地域住民のくらしをより良くするための事業を行っています。

JAは「農業協同組合」なので、地域農業を發展させ、組合員のくらしを守り高めることが最も重要な目的です。農業の生産力を高め、農業所得を向上させるため、営農技術の指導の他、安全で品質の良い肥料や農薬、農機具などを適正な価格で提供するなど、農家を総合的に支えています。

JAでは「農業」を農地、食べ物、地域のくらしや環境なども含めて広い意味で捉えます。学校給食への農産物の提供や農業体験などを通じて地産地消を促し、農業と食・くらしをつなげています。信用・共済事業の他、高齢者福祉事業なども行い、地域にくらす人々の生活をより良いものにするこことで、地域の活性化に貢献しています。